

いずこ
何処とも知れない、闇に満ちた広い一室。
春日恭二は、王でも気取ったように悠然と脚を組んで座る目の前の人物をじろりと睨みつけた。

譲:(渋い悪役風の声で) 「.....どうなっている、“ディアボロス” とか？

GM : いや。春日恭二が相手に話しかけるところからですね。

「なあ、おい..... “見えざる神の手”。.....本部から撤退命令だ。

何でも、UGN の連中にお前の計画がバレちゃったらしいじゃないか.....？」

自分でも分かるほど虚勢の透けて見える声に、内心舌打ちが漏れる。

それを察したのか、返答は多分に余裕を含んでいた。数時間前、渋谷修治 と名乗った声だ。

「フフ.....分かっているよ。でもね、知られたから何だと言うんだい？ 叩きつぶせばいいだけさ。

“イノセント” いいや、明日完成する“無垢なる大罪”で、ね」

言葉と共に、闇からの無粋な視線が絡んでくるのを感じて、春日恭二は身じろぎした。

「 “ディアボロス”。そういう君こそ、何か芳しい成果を上げているのかい？

フ、そんなことだから.....いつまで経っても使い走りのようなことしか任されないんだよ」

見えずとも分かる。あからさまなまでに揶揄を含んだ“嗤い”に、怒気が吹き出した。

譲:(ノリノリの裏返った怒声で) 「な.....あんだとおっ!? 手前えみてえな若造に俺の苦労が分かってたまるかああああ!! だ.....だいたいだなあ.....！」(一同爆笑)

「だいたいだなあ.....っ、お、お前の“イノセント”とやらだって、上手くいくとは限らんさ！

そうやって UGN の連中を舐めているとなあ、お前だって.....！」

こら
堪えきれない怒りを叩きつけていると、闇の中から白い手が伸びた。煩げに振られる。

「それが、何か？ 格の低い者に勝ったからと言って、連中の株が上がる訳じゃないだろう？」

これ以上ない、直接的な侮蔑。あまりの制止に、言い切れなかった言葉が宙に碎ける。

しばらく口を開け閉めしていた春日恭二は、我に返ったと同時に踵を返していた。

譲:(ノリノリで春日恭二の乗っ取り続行中) 「おま.....ッ、お.....覚えてるよ!! 」と涙目で(笑)。

英達 : 超下っ端悪役だっ(笑)。

譲のプレイヤーを中心に、口々に演出したり野次ったり、笑いが絶えない様子のプレイヤー諸氏。

いやぁ.....こんなにウケてもらえると、可哀想な春日恭二も報われるというものである。

GM : そうそう、おおむねそんな感じ(笑)で、春日恭二が去った後。

春日恭二(かすが・きょうじ) 悪魔“ディアボロス”の二つ名を冠する FH エージェント。キマイラノエグザイルシンドロームの持ち主で、素晴らしい戦闘能力を秘めるエリート.....のはずだが、どうにも素直かつ勤勉過ぎる性格とツメの甘さが祟ってか、ことごとく失敗し転落を続ける男。割と可哀想な扱いをされることが多いが、倒れても倒れても挫けない雑草の如きしぶとさは賞賛に値する。

「い、いいか……っ！ 俺は、本部に命じられた通り、警告はしたからなッ!!」
一応、怒りを抑えようとはしたのだろう。だが、彼の口から出た声は甲高く裏返っていた。
……そして、靴音高く“ディアボロス”が立ち去った後。残された影が椅子から立ち上がった。
細身のパンツに包まれた肉感的な脚線美。くびれた腰。胸の膨らみの前で腕が組まれている。

譲:(深刻な調子で)……ま、間違いない。こいのぼりじゃない……っ!

春日恭二が退場してシリアスになったんだから、無理矢理面白くしないでいただきたい。

GM: 口許に浮かぶのは、妖艶な笑み。立ち上がったその女性は、こう言う。

一同:(“女性”に引っ掛かって)……ん?

「おっと……つい“渋谷修治”の癖が出てしまうね」

影は組んでいた腕を解くと 何かを思索するような仕草で、唇に人差し指をのせて微笑んだ。

「うふふ 無垢なる者は“罪”を知って不完全になったがゆえに、完成する。

そう、まるで……空虚な人形だったアダムたちが原罪を知って“人間”になったように、ね。

楽しみだわ、私の“無垢なる人形”……」

“渋谷修治”と同じ唇からこぼれた“女”の愛おしげな囁きは、濃い闇に溶けて、消えた。

* * *

英達:……つまり……目白さん=渋谷さん=“見えざる神の手”……だった、ような、気が。
譲:(あっけらかんと)で、目白さんで誰。

……あなたが情報収集してきた中にいたんだ。

英達:(思っきり脱力した口調で)斎木病院のおお～……。

秀真:外科部長だよ。

譲:(はたと気付いたように)お……、おおう! 何て俺様は優秀なんだ!(笑)

真相とは逆の推理してたけどな。しかも、それすら忘却の彼方に置いてきてたけどな?

英達:FHからお金受け取ってた人だよ!

譲:ふ、その程度。完全に読み切っていたさっ!(あさつてを向いて)読み切っていたさっ……。

GM:まあ、とりあえずこのシーンは春日恭二出したかっただけなんで!(笑)

譲:そして俺は春日恭二を演れたので!(笑)

GM:みんな楽しんだところで、次つぎ～(笑)

間違いない～ かなり好意的に解釈しても、結希はグラマラスからはほど遠いため。しかし、そんな確信の仕方してると、今に“死神支部長(結希の陰での別称)”の正式な部下にされるぞ、譲。

目白=渋谷 今まで目白=“ザ・フェイト”の図式は間接的なヒント(献金の件であるが、譲はGMの意図とは逆に受け取ったようだ)しかなかったため、このシーンはその補完の意味もあった。

目が覚め、反射的に身を起こしたとき あまりのリアルな感覚に、英達は軽い目眩を覚えた。ざらついて半ば朽ちかけた、コンクリート剥き出しの壁。濼んだ空気にぼんやりと舞う埃。まさに廃墟、といった戦場を見回していると。……不意に、視界の隅に眩い光が差し込んだ。

GM：じゃ、英達。目が覚めた、と思ったあなたは、薄暗い廃ビルのようなところにいました。

英達：(思いっきりわざとらしく) あれえ？(笑)

GM：カチッ、と音を立てて目の前の壁に文字が浮かび上がります。プロジェクターで投影されたテロップのようですね。これは是非洪い声で読んでいただきたいので……譲、お願い出来る？(笑)

譲：はいな。んん……と (いきなり洪い声になって)

『Double Cross それは、裏切りを意味する言葉。

昨日と同じ今日、今日と同じ明日が続いていく日常。
しかし、その日常は既に変貌してしまっていた……。

不可思議な能力を発症させる謎のウィルス、レネゲイド。
その能力を怖れた政府は、秘密裏に発症者を隔離。
たった一人だけを生き残らせると発表した

あなたはそうしたレネゲイドウィルス発症者の一人だ。
そして、ここはその“審判”の場。
生き残ることが出来るのは、十人中、たったのひとり。

生き延びろ。』

英達：最初の行からだんだん顔が険しくなっていて、「はあっ!?’ってちょっと前に乗り出す。

譲：で、最後はこう。「生き延びるその日まで、貴様らは人間ではない! ウジ虫だ!!」(一同苦笑)

英達：黙れ(一同笑)。

……本っ当に嬉しそうに声色を変えてオチを付け加える譲のプレイヤー。

せっかく英達のシーンなのに、シリアスに演らせてあげようという思いやりはお前にはないのか。

GM:(笑)。……じゃあ、前の方に向かっていくの？

英達：いや、ちょっと一歩踏み出して……バツと後ろを振り向くね。

途端、光源から伸びる光がまともに英達の眼に入り、慌てて腕で強い刺激から眼をかばう。

慣れを窺いつつ、そろりと腕を動かしかけたとき 逆光の中、人影が飛びかかってきた……!

「貴様らは～」譲のプレイヤーがある意味大好きな映画『フルメタル・ジャット』の新兵訓練シーンでは、教官が訓練生に下品な罵声を浴びせまくるのだが……そのへんのノリだと思われる。

GM：そろそろ、とんでもないことに巻き込まれたのに気付いてきたってことで、ここで衝動判定。
英達：マジで？（ダイスを振る）…… RC 技能ないけど9で成功。こんなときばかり……（涙）
GM：OK。あなたに飛びかかってくるのは さっき手を挙げて質問していた少年です。
英達：は～、説明会のときの。とりあえずヒラッと避けてから、顔に見覚えがあるよなあ……と。
GM：記憶より歪んだというか、凶悪な顔だけだね。首にかかったヘッドホンに見覚えがある。
英達：……正気がありそうな顔？
GM：（爽やかにきっぱり）なさそうな顔。

そこで、席を外していた譲のプレイヤーがテーブルに帰ってきて一言。

譲：えーと、アレだよな？ 光源の後ろから俺が飛びかかってきたところだよな（笑）

GM・英達：お前かよっ！（笑）

英達：お前だったら遠慮無くブチのめすぞ、コラ。

……それはさておき
……閑話休題。

英達：コイツどうなっ 正気じゃないのか……？ と様子を窺う。

GM：（視線を落として昏く息をつく譲の演出を見て）ん、どっちかつーとアッパー系だね。

譲：（即座に反応して）ヒヤッハ、ハはHA ッハ……ッ!?

GM：「さっきの女の子は全然手応えなかったからサ！ アンタはちょっとは保ってくれヨなァ！」

英達：む、その言葉に反応しよう。（眉をひそめ、そわそわしながら）「……女の子おっ!？」

GM：あなたの言葉に彼は取り合わず、襲い掛かってくるよ。ということで、第1ラウンド。

第1ラウンド

GM：こちらの行動が先だな。まず《ハンティングスタイル》で《破壊の爪》と《バトルビート》。

英達：ッ!? おおおおっ、同族か！

譲：何と……キュマイラ / ハヌマーンか。

GM：タンタン、と拍子を取るように足でステップを踏みながら 彼の右手の爪が巨大化します。
「この手で引き裂くと肉がビチビチッTE！ あははハ……！」って言いながら（笑）

桐子：やべえええ っ（笑）

衝動判定 強い相手を前にしたときや、強烈なショックを受けるような事態に陥った際に体内のレネゲイドが活性化し、“衝動”と呼ばれる感情の波を引き起こす。それを制御出来るかどうかの判定。

RC 技能 レネゲイド・コントロール技能。文字通り、体内のレネゲイドを制御する技術を表す。

アッパー系 覚醒剤をアッパーと言うことから、GMは興奮して正気を失っている様をこう表現した。

エンゲージについて この戦闘において二人はエンゲージの話は一切していない。ひとつは直前のシーンから接敵状態がふさわしいと判断したため。もうひとつは、英達・NPC とともに近接格闘タイプでかつ準備にマイナーアクションを使うため。余計な移動を省いて戦闘のテンポを上げるためである。

《ハンティングスタイル》 他にキュマイラのエフェクトを二つ使用し、即座に狩りの体勢に入るキュマイラのエフェクト。後述の《バトルビート》を見ても分かるが、二人とも適用を間違えている。

《破壊の爪》 腕を巨大なかぎ爪に変え、素手の破壊力を上昇させるキュマイラのエフェクト。

《バトルビート》 自らの鼓動のリズムに乗って、戦闘を有利に進めるハヌマーンのエフェクト。

GM：飛びかかるぜえ。(ダイスを振った後でぼそっと).....今日はアホな出目してる気がする。

英達：回避 は(ダイスを振る).....クリティカルはしてないか、9が出るのに~。

このときの英達の出目は9・9・9・7・6・6・1。悪くないどころか充分いい方である。
しかし 惜しいかな、《業炎》が下げるのは 白兵 のクリティカル値のみなのだ。

英達：達成値34ってムリに決まってんじゃん(涙)。ダメージダイス4個って、それ死ぬぜ?(笑)

GM:(ダイスを振って).....何か、今日、おかしいよ?(笑) 4つ振って、コレ(笑)。

GMが持ち上げたマスタースクリーンの後ろには、6・6・9・9の目を上にしたダイスが。

桐子：がはあっ!!凄い出目。

英達：ダメージ39点!? 《リザレエクト》ッ!(笑) (ダイスを振る).....いち(涙)。

GM：「Dロイス：対抗種」が発動したらその場で死ぬますな(笑)。

譲：「俺はまだ負ける訳にはいかない! 死ぬええっ!!そして、俺も生き返るッ!!」(一同笑)

GM：次は英達の番だな。(ドスの効いた声で)来いやあ!(笑)

英達：.....そちらがその気なら、こっちだって! 同じく《ハンティングスタイル》で《破壊の爪》

と《氷の加護》。メジャーで《業炎》使ってクリティカル値は8。(ドスの効いた声で)いくぜえ!

譲：何、このノリ.....ナニこのガチバトル.....(笑)。

対戦格闘ゲームをモデルにしたキュマイラ同士の戦いなら、こんなノリになるのも当然かと。

英達:(ダイスを振る).....よっしゃあ、クリティカル(ダイスを振る)クリティカル っ! で27。

GM:(ダイスを振って)お、一回クリティカルした.....けど達成値12か。

英達:(嬉しそうに)はっはっはっは.....(笑)。(ダイスを振って)えっと、ダメージは25点。

GM：なら《魔獣の証》で[昏倒]から復活。HPは本来20点回復だけど、それ以下だから全快。

少年が踏み鳴らしていた足をいきなり強く踏み込み、かぎ爪を振りかざして懐に飛び込んできた。
胸を薙ぎ払われて二、三步退きながら、同じく英達も腕をかぎ爪に変じて少年の腹を貫く。
たった一瞬の攻防 それはゲームなどではなく、獣の殺気が取り巻く異形の戦いだった。

* * *

英達：.....まだ《完全獣化》してないんだよねえ。

譲：くっ.....さらに私の支援を受けたら、どうなるか.....! 楽しみだ、楽しみですよおお!?(笑)

GM：.....キミが喋ると何か面白くなっちゃうから、ヤメテ(笑)。

譲：え?(笑)

アホな目 10面ダイスの期待値は5.5であるが、二人の出目の平均値はそれを遙かに超えている。

対抗種 排他性レネゲイドのキャリアであることを示すDロイス。他のレネゲイドに対して攻撃力を高めるが、その強力な排他性は己のレネゲイドをも喰らい尽くすため、代償としてHPを2点消費する。

《魔獣の証》 全開にした獣の生命力で、強引に傷をふさいで立ち上がるキュマイラのエフェクト。

《完全獣化》 人型から完全な戦闘形態に変化し、身体能力を上昇させるキュマイラのエフェクト。

第2ラウンド

GM：今回は達成値 25。英達は、またクリティカルなし？ それじゃ、ダメージはさんじゅ……。

秀真：(後ろの方で) 追い詰うめら~れて花が咲くっ

英達：《リザレクト》！（笑）（ダイスを振る）…… 10（笑）。なあって今日は極端なんだ。

GM：ま、この破壊力だと1も10も大差ないが（苦笑）。侵食率考えると、むしろ1の方が楽？

譲：……そうだね。この状況なら（苦笑）。

英達：(悩んでいる)……いや、《完全獣化》しちゃえ。《ハンティングスタイル》+《完全獣化》+《氷の加護》使ってから、メジャーで《業炎》。侵食率が一気に跳ね上がるよ！（笑）【肉体】5個に侵食率ボーナスで3個、《完全獣化》で4個……ボス戦でもないのに何個振る気だ自分！（笑）

（ダイスを振る）6個クリティカルして（ダイスを振る）達成値 29。

GM：(ダイスを振る)……む、ダメだ。17じゃ避けられん（苦笑）。

英達：(嬉しそうに)ダメージ行きまあ~（ダイスを振る）…… 24点。

GM：24か。そりゃ、喰らうと死ぬので……「お前も一緒に逝けエッ!?」と言って《復讐の刃》。

譲：ぶふっ!?（苦笑） 受けたダメージ返す技だっけ？

GM：ちょっと違う。防御行動を放棄して、防御不能な白兵攻撃を仕掛けるエフェクト。

……って、**避けちゃったからダメじゃん!** さっき放棄するべきだった（がっくり）。

エフェクトの適用ルールをよく読まないで、このように痛恨の戦術ミスが引き起こされる。

ええ、反面教師としてやったんですヨ？ ……………嘘です、思いっきり素でした。とほほ~。

GM：こりゃ、倒れるしかないな。その攻撃だと、凍らされたうえで砕かれる感じ？

英達：爪が冷気を放っていて、傷口から炎が噴き上がる、で……（ぼそっ）ヒデェコイツ……っ（笑）。

GM：自分でヒデェとか言ってるし（苦笑）。……さて、彼はあなたの足許に倒れました。

英達：相手に「お前……女の子って、……どういうことだよ!?」と訊きます。ほら、咲島さんかどうか重要じゃないですか（笑）。でも、他にも女の子の人が来てたって言ってたしさあ……！（焦）

GM：うん、言ったね。

細かい一言だったのによく覚えているな。……誰かさんと違って。

GM：でも、^{うつ}虚ろに笑って、いかに“彼女”を引き裂いたとき楽しかったかを語っているだけだ。

英達：やっぱりか。そいつが来た方向って出口だったんだよね？ そっちに向かって走ります。

“女の子”を裂いた、と嗤う少年の声。悲鳴をあげる“彼女”が浮かんで、眼を閉じて唇を噛む。

余計なことは考えなくていい。アイツの……咲島の無事だけ、考える……！

「……チッ！」 埒のあかない問答を切り上げ、英達はバネのように部屋を飛び出して行った。

追い詰うめら~ 秀真のプレイヤーが好きな歌「前略、露天 呂の上より~芸人魂の詩~(NO PLAN)」の一節。シーン内で英達がピンチに陥ったために、その部分を口にしたのだと思われる。

むしろ~ 《リザレクト》を使うと回復したHP分、侵食率が上昇する。敵 NPC はHP10点でも耐えられない破壊力なので、せっかく10を出しても侵食率の上げ損になる可能性が非常に高いのである。

《復讐の刃》 防御を捨て、相手の攻撃にタイミングを合わせて攻撃するキュマイラのエフェクト。